

2019年度 女性とスポーツの会 研修会
 「第5回 スポーツの絆 WOMAN 和-クル」 報告書



1 ねらい

山口県内のキッズ・ジュニア期のスポーツにかかわる女性指導者や大人が集い、女性とスポーツについて学んだり、話し合ったりすることで、お互いの交流の場とする。

2 期日・場所

期日：令和元年7月20日（土） 13：00～16：30
 場所：カリエンテ山口（山口市）

3 参加者 42名（託児：5名）・・・ 団指導者・団保護者・総合型地域スポーツクラブ・教員
 スポーツ推進委員などの分野の参加がありました。

4 日程

12：30 受付	13：00 開会行事	13：15 ～15：15 講 話 「運動遊びで気づき が生まれる」	15：30 ～16：10 わいわいトーク （参加者同士で）	16：15 閉会行事
-------------	---------------	---	--	---------------

5 講話「運動遊びで気づきが生まれる」 Adventure Design 難波克己 先生



難波先生には、昨年度12月にも、アドベンチャー教育の手法を用いて講話と実技を行っていただきました。今回は、これまでの流れを受け継ぎ、「スポーツや運動遊びを通して、子どもや指導者にどんな気づきが生まれるのか」というテーマでご指導いただきました。

まずは、「遊びとは?」「スポーツとは?」の問いかけに、参加者からはいろいろな答え

が出されました。遊びとは、「人間の本能」「ゆとり」「高揚感」など、様々な解釈がありますが、スポーツになると、「ルール」「競い合う」などのイメージが強くなります。それは、ルールを守ろうとする意識の現れで、それも必要なことです。しかし、ルールに縛られると、創造力を失わせる結果にもなります。

難波先生から、「スポーツはそもそも遊びであり、創造力を育てるものであるはず。スポーツを結果としてとらえずに、プロセスとして見ていくと、スポーツにかかわるすべての人が信頼関係で結ばれるのです」との説明がり、新たな発見をされた人が多く見られました。

実技では、難波先生の巧みなトークで、参加者が体を動かしながら、スポーツの楽しさや創造性



▲ブラックホール（輪の中に両足をを入れて・・・）

などを学び、たくさんの気づきが生まれたようです。

参加者のアンケートから、次のような感想が寄せられました。



▲ハンドクラッピング（気持ちを合わせて）

□子ども目線で参加させていただけたことで、声を掛けることや提案すること、話し合うことが意外に難しく、勇気のいることだとわかった。そのような子どもの気持ちに寄り添えるようになりたい。（教員）

□ルールは自分たちで作ってよし。子どもの目線を指導者が知っておくことやお互いの信頼関係の大切さなどを学べた。（指導者）

□遊びは考え方一つでいろいろなことができるし、子ども同士のコミュニケーションも図れることに気づき、すごく楽しく、参加してよかった。（保護者）

6 わいわいワーク「女性とスポーツ、子どもとスポーツ」

参加者が6～7人のグループになり、それぞれの立場からの意見や感想など、気軽に話し合う時間をもつことができました。各グループでのわいわいトークの主な内容は次のとおりです。

Aグループ	小学生をどのくらいのレベルで教えるのか？ ・「遊び」をベースにスポーツを。勝つことばかりにこだわらない。
Bグループ	女性がスポーツをできる環境を ・社会・家庭の理解をもっと得るような活動を。子離れ、親離れも
Cグループ	スポーツを通して見えてくるもの ・介入しないで見守ると、子どもをもっと理解することにつながる。 ・スポーツを通して、自分の気持ちをコントロールできるように。 ・外で遊んでいない子どもたちをどのようにするのか
Dグループ	女性とスポーツ ・主婦がスポ少で指導することは大変難しいが、ファミリーサポートなどを活用できるとよい。 ・食事などの栄養面でのサポートが、女性の役割になっているケースもある。
Eグループ	子どもを育てたり、指導したりする場合 ・上から目線になり、目標を押しつけてしまっている。 ・親と一緒に遊び、子どもの提案を引き出すことが大切。

各グループとも、熱心な話し合いが行われました。この「わいわいトーク」には、次のような感想が寄せられました。

□様々な立場の人からの話を聞いて参考になった。保護者の気持ちをもっと考えていきたい。（教員）

□子どもたちは遊ぶ（からだを動かすこと）が嫌いなわけではない。スポーツ少年団での練習や試合になると思い切り体を動かせていないのは、何が原因なのか。プレッシャーを感じずにのびのびとスポーツをさせる環境を作りながら、勝つ喜びやスポ



ーツの楽しさを教えたいと思った。(指導者)

□遊びの環境が変わってきている中で。大人がかかわったり、見守ったりすることで、運動する楽しさや失敗しても大丈夫という気持ちなど、いろいろな経験をすることが児童期には必要であることを実感した。(その他)

□一人一人の体力が違うので、子どもの適性にあった目標をもたせることが大事だ。(保護者)

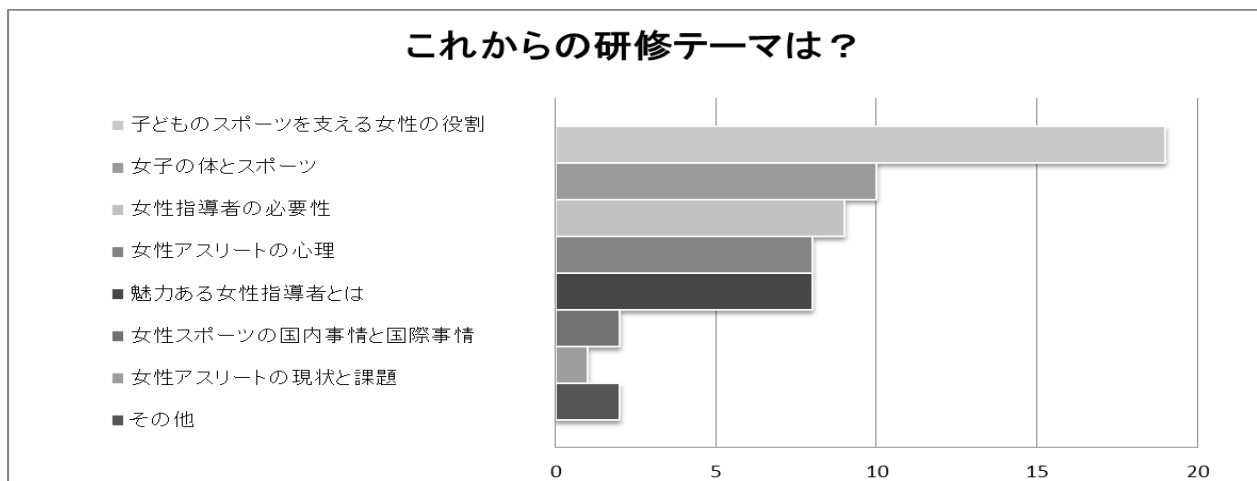
7 子どもとスポーツにおける課題 (参加者の意見から)

□スポーツが好きだけど、集団の中にいることに抵抗を感じる子どもも参加できるようなスポーツの形が増えてくるといいなと思った。(その他)

□体を動かすことよりも魅力的な物が多く、体の動かし方や楽しさを味わっていない子どもが多い。いろいろな外遊びを体験できる場(学校・スポーツ少年団・地域活動など)があると次につながっていく。(その他)

□スポーツの低年齢化において、個々に応じた指導法が必要であることを感じた。(保護者)

8 これから学びたいこと



これからの研修では、「子どものスポーツを支える女性の役割」に関係した内容を希望する声が多く出された。女性とスポーツの会では、子どもの遊びやスポーツをツールとして、より多くの女性がスポーツに関われるようにすることを目的としており、参加者の希望とも一致していることがわかりました。

8 まとめ

スポーツそのものを楽しむことに止まらず、スポーツをクリエイティブしていくことの中にもスポーツの楽しさがあることを多くの参加者が学べたようです。

女性とスポーツの会のこれからの活動に期待されておられる人も多く、「スポーツの指導だけではなく、子どもをどのように育てていくかに特化して、多方面からの深めていくことができ、有意義だった」「女性アスリートが体の変化に伴って、感覚が狂って伸び悩む時期があると聞いている。どのようなことが原因なのかなど詳しく知りたい」などの意見の他に、「このような研修に多くの人に参加してもらえると」との感想が多く寄せられ、高評価を得ることができました。

今後も、実行委員が力を合わせて、学びの機会を提供し、魅力ある指導者の拡大に努めてまいりたいと考えています。

(文責：山口県女性とスポーツの会)